

税という支え

東山中学校3年

秦 文詠

今の僕があるのは税金のおかげだ。教科書一冊を見てもその費用は税金で賄われている。インフルエンザに罹っても、その医療費や薬の代金は、たったの二百円で済む。

もし税がなければ、今の僕の生活は成り立たない。納税義務のない僕達若い世代もより多くの人があるありがたみに気付き毎日を大切に生きなければならない。また、同時に税金のあり方とは「全国民に豊かな暮らしを与えること」だと僕は思う。

しかし、税金があるべき姿から離れてしまうケースを残念ながらよく耳にする。代表的な物が国会議員の汚職だ。国民が、時に汗を時に涙を流して納めた税金が、個人の私腹を肥やすために使われるのだ。また、会議中居眠りをする者の給料についても同様だ。それらの歳出は無駄であるとしか言い様がない。

昨今物価高や増税などが騒がれているが多少は目をつぶらなければならないと思う。なぜならその行為が今の豊かな生活の維持につながるのだから。しかし、行政が全く信頼できないのでは言語道断。もっと透明性が必要であると僕は考える。

また、税の使い方についても同様である。そこで、僕は三つの新しい税の使い方を提案する。

一つ目は IT や宇宙産業などの先端科学の研究への補助金制度の拡充だ。ニュースなどを見ていて、研究所等のインタビューでは資金不足で研究が滞るということをよく耳にする。先端科学への先行投資は、結果的に日本の国力の増強や人類の大きな飛躍につながる。よって国はこれをもっと勢力的に推進していくべきだ。

二つ目は教育や介護など社会保障のさらなる拡充だ。大阪では二千二十六年には、全ての学年の教育費を無償化するという方針が現時点では示されている。それを国を上げて行えばどうなるのか。結果的に出生率が増加し少子高齢化に歯止めがかかるのではないだろうか。また、若い人材の育成は将来にとつもない発明をもたらす可能性のある意義深い行為であり、もっと補強されるべきだ。

最後に生態系の保全だ。今日本の自然は危機的状況にある。ゴミのポイ捨て、外来生物など、あまり関心の向きづらい問題ではあるが、ボランティア活動などを通じてその重要性をもっと知らしめるべきである。

僕の生活があるのは、税金と、それを納める人々のおかげだ。彼らから現在進行形で受けている恩を、しかと受け止めその恩返しが次の世代にしてあげられるような立派な大人になるため、税という支えに支えられながら教養と知識とをもっと身につけていこうと思う。